

文化・芸術

宮沢賢治作 茂田井武画

「セロひきのゴージュ」表紙

福音館書店、1966年初版
21×31cm×18・7枚

茂田井武（1908～56年）

絵本「セロひきのゴージュ」は、童画家茂田井武の最後の作品です。1966年に刊行されて以来、現在まで80刷以上に版を重ねて読み継がれています。

この展覧会では、桐生タイムス社にご協力ねがい、ご自身の思い出と大切にされているこの絵本を貸していただけないかと紙面を通じて募集しました。そうしたところ、市内を中心に6人の方から、思い出の文章と絵本を寄せていただき、今、原画とともに展示させていただきました。読んでいます。子どもときに読んだ一冊の絵本が、どれだけ心を動かし、そして大人になっても記憶され、その後の心の糧になっていたのかが分かり、とても感動しました。

さて、新型コロナウイルス禍が続くと思っていたら、今度は戦争です。重苦しい現実ですが、こうした絵本を大切にすることが、優しく温かい心があれば、こんなことにはならないだろうと思っています。

（田中）

《名画の扉》

大川美術館「茂田井武—パリ青春日記
ton parisを中心に」展から

